



みねのぶ

1月号

迎春



■発行日/令和4年1月1日/No.1437号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

令和4年の新春にあたり



代表理事組合長
森川和徳

付金の見直し内容を固めており、その内容に対する困惑は徐々に全国へ広がりつつあります。転作率が高く、全国の需給調整に協力して取り組んできた本道においても、

令和4年の新春にあたり、組合員皆様、御家族皆様が御健勝で新年を迎えられましたことに、心より御慶びを申し上げます。

また、関係機関の皆様には日頃より御指導並びに御支援を頂いておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

昨年の情勢を振り返りますと、米価下落の懸念により、水張転作である飼料米作付が大幅に拡大するとともに、需要と供給の不均衡によって、主食米の作付が著しく縮小した年となりました。

今年の情勢を振り返りますと、米価下落の懸念により、水張転作である飼料米作付が大幅に拡大するとともに、需要と供給の不均衡によって、主食米の作付が著しく縮小した年となりました。

また、多面的な水田機能の保持と農村環境維持の立証を、要件として求められています。今後の農業生産への影響を考慮し、JA北海道中央会との協議を経て、北海道を通じて政府に対し、地域実情の理解を強く求めていかなければならぬと考えています。

昨年の営農を振り返りますと、スタートは令和2年から3年にかけて豪雪に見舞われ、育苗ハウス倒壊などの被害を発生させた9年前に匹敵するほどの積雪でした。この積雪によつて春作業の大幅な遅れが心配されましたが、3月に入つてからは天候に恵まれ、融雪が順調に進んだ結果、平年並みのペースで水稻の播種から育苗、本

なります。

また、農林水産省は水田活用交

田作業、そして移植作業まで終えることができました。

水稻は移植以降冷害危険期、開花期天候、気温にも恵まれ成熟、収穫期も平年を1週間ほど早まり取量においても平年を大きく上回る豊作となりました。

秋まき小麦の生育については、起生期以降、順調に生育していましたが、開花期以降の高温少雨が収量に大きな悪影響を与える結果となりました。

大豆については、作付増による施設調整量の増加もありましたが、10月上旬までの晴天により乾燥機を使用する高水分原料大豆が少量であつたため、昨年同様、年内に施設操業を終了することができました。大豆乾燥調製貯蔵施設の操業も3年目を迎えて、2年間の操業経験を活かし、工程管理を徹底する調整施設として、組合員皆様の負託に応えてまいります。

峰延地域の農協として経営の健全性を高めるのは勿論のこと、多様化するニーズへ柔軟に応えながら、組合員皆様の営農生活の向上に貢献していく所存です。更に准組合員の皆様をはじめ、峰延地域住民の皆様から頼りにされる拠り所として、期待を集めています。

職員は自主自立により行動するため策定した「職員行動規範」をもとにした行動を心掛けているほか、風通しの良い職場風土を作るための第一歩としてヘルplineを設置し、日々の業務に務めています。今年も組合員の皆様、准組合員

ら、より前向きに、そして心身ともに安心して業務に取り組める農業を目指し続けます。

役員執行体制については、昨年は役員定数及び常勤体制についての検討・協議を行う「役員体制検討審議会」へ諮問を行い、その答申を経て、10月22日に臨時総会を開催しました。今後の体制については答申通り承認可決され、定款変更を行つたことを組合員皆様にご報告いたしました。

現在は第74回の通常総会開催に向けて「役員推薦委員会」へ今後の役員体制並びに役員選考をお願いしているところです。

峰延地域の農協として経営の健全性を高めるのは勿論のこと、多様化するニーズへ柔軟に応えながら、組合員皆様の営農生活の向上に貢献していく所存です。更に准組合員の皆様をはじめ、峰延地域住民の皆様から頼りにされる拠り所として、期待を集めています。「報徳」の実践により、時代の変化に合わせて柔軟に対応しながら、峰延地域の未来を確かなものにするため努めてまいります。

今年も組合員の皆様、准組合員

の皆様、地域住民の皆様の御利用
御支援を賜りますようお願い申し
上げ、令和4年の年頭にあたつて
の御挨拶とさせていただきます。

令和4年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
代表理事長 小野寺俊幸

は、生育が大変、心配されたもの
の、おむね平年作を確保するこ
とができました。

しかしながら、一昨年から引き続き、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年でありました

農業分野においても例外ではなく、各種イベントの自粛、外食の需要減少等の影響により、各作物の消費に大きな影響が出ています。

は、改めて、協同組合運動の原点である「対話」を通じて、実践方策を設定し、実践と改善をくり返すことで、変化の波をJ.A運営に取り込んでいくことが必要であり組合員・役職員が一丸となつてしつかりと取り組んでいくことが重要となります。

結びになりますが、本年は壬寅年です。十干の「壬」は陽気を下に宿すという意味を持つております。生命の誕生を宿す意味を表します。一方、十二支の「寅」にも壬と同様で、草花が伸びようとする状態を表しています。この謂われにあやかり、本年が豊穰の年となること、新型コロナウイルスの1日も

早い終息と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といった所であります。

昨年の本道農業につきましては、春先は天候に恵まれ順調に推移したもので、7月～8月にかけての長期間の猛暑や少雨による干ばつ、また、9月に発生した雹や大雨により、一部の地域や作物によつて

コロナ禍やデジタル化への対応
SDGsへの貢献、信用・共済事業をはじめとしたJA経営を取り巻く事業環境への対応など、北海

代表理事組合長
専務理事

員外監事 代表監事 リリリリリリ



安佐高山橋河北望吉渡伊森
外沢藤田本野月村辺達藤川
職員義和 昌和博 雅俊和
一同孝彦 豊仁 宏秀 視 豊忠 実進 春徳

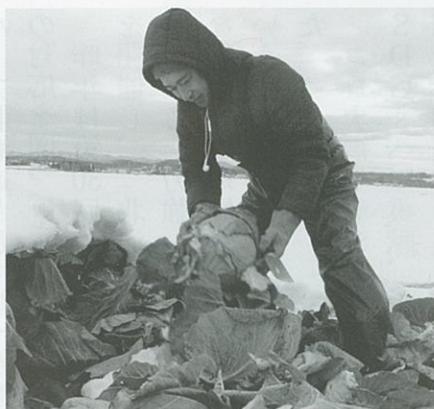


キャベツの根切り作業をする 岡部卓磨さん

当JA管内の野菜生産者グループ「カラフル」のキヤベツ友の会では、今シーズンも11月上旬から越冬キヤベツの出荷が始まっています。例年7月上旬には育苗用セルトレイへの播種を行い、3週間ほど の育苗期間を経て移植を行います。今年は移植時期が高温・少雨の時期と重なり、例年以上に灌水作業に追われましたが、質・量ともに例年並みの仕上がりとなりました。生育期間中は結球の遅れなどが心配されましたが、同会の高橋勲会長を始めとするメンバー間での情報共有もあり、雪が降る前までには約2キロの大きさになり、ずつ

「キヤベツ友の会」越冬キヤベツの出荷始まる

みずみずしく、甘みのある仕上がりに



雪の下からキャベツを収穫する
三浦泰来さん

しり重たくよく詰まつたキヤベツに成長しました。

会長を始めとするメンバー間での情報共有もあり、雪が降る前までには約2キの大きさになり、ずつ

越冬キヤベツには2度の重要な作業があります。11月上旬から雪が積もる直前に行う「根切り作業」、そして1月から3月にかけて雪の中深くで保存していたキヤ

ベツを掘り出す「収穫作業」です。収穫作業が2度あるというだけでも通常のキヤベツより手間がかかりますが、気温が氷点下の極寒の中で雪の下から掘り出すという作業はかなりの労力を要します。手間や労力も多くなりますが、その

分通常のキヤベツよりも糖度が上がり、新鮮でみずみずしい甘みのある美味しいキヤベツになります。根切り作業を終えたキヤベツは

た。同会は、「YES! clea
n」の登録集団として認証を得て
活動しています。農薬や化学肥料
の使用を必要最小限にとどめ、よ
り安全で高品質なキヤベツの栽培
に取り組んでいます。

上に、通常のキヤベツより甘みのある味わいになりますが、今シーズンは少雪の影響で凍結による傷みが発生しやすいと懸念されています。キヤベツ友の会は平成22年に発足され現在9人でキヤベツの栽培

外側の葉を残したまま畑に積み上げられ、その後雪に覆われることで保温・保湿され、長期間の保存が可能となります。キヤベツを保存する雪の中は0°C前後で、キヤベツを保存するのにとっても適した環境になっています。0°C前後の寒さの中だと、キヤベツは自分の身が凍結するのを防ぐため糖度を高めることで凝固点を下げ、寒さから身を守ります。このため、越冬キヤベツは新鮮さが保たれています。

キヤベツ友の会の岡部卓磨さんは、「茨城県や愛知県などライバル産地の出来も良く、安価での推移が続いているが、1月以降の需要の回復に期待したい」と話していました。

キヤベツ作付面積は348ヘクタールで、前年は試験栽培をしていたこともあります。収穫されたキヤベツは、コーポさつぼろ（岩見沢南店・岩見沢東店・美唄店・野幌店・江別店）のご近所野菜コーナーや札幌市内にあるコーポさつぼろ各店舗、三井アウトレットパーク北広島にある北海道ロコファームビレッジへ出荷しています。



キャベツ友の会の皆さん



機械の説明を受ける JAいわみざわ青年部の皆さん

11月24日、JAいわみざわ青年部員60名の皆さんが当JA大豆乾燥調製貯蔵施設を視察に訪れました。当JA営農販売課横田職員が施設の概要について説明し、調製ラインの見学を行いました。見学は、10名単位で大豆の調製の流れに沿つて行い、事前に用意した各調製機械から排出される大豆と屑大豆のサンプルを見学しました。

視察に訪れた皆さんには、空知管内ではあまり導入されていないタピオカを使う汚粒クリーナー、汚粒・割れ・しわ・虫食いを除去する色彩選別機について興味深く見ていました。また、質疑応答の場面では、利用料や歩留りについての質問が出ていました。

大豆乾燥調製貯蔵施設に視察來訪 JAいわみざわ青年部員60名一行

11月24日 JAいわみざわ青年部員60名の皆さん当JA大豆乾燥部貯貯貯蔵施設を視察に訪れました。

J Aみねのぶ営農販売課は、11月30日に当JA大会議室で米・麦・大豆栽培講習会を開催しました。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言及び蔓延防止対策期間の解除後、初めての講習会開催となり14名の組合員が参加しました。

講師に空知農業改良普及センターの向川専門普及指導員と高橋専門普及指導員を招き、令和3年度の気象や作物の生育状況を振り返り、令和4年度に向けて、各作物の技術対策について説明しました。講習終了後の質疑応答では、大豆の防除時期や薬剤の選定の仕方



講習会の様子

で構成、手続きを経て選出された方々を組合長が任命し任期は3年です。改選期に当たり今後3年間の委員は、浅香邦彦氏、森川雅夫氏、松下誠氏、佐伯哲也氏、白石昭彦氏の5名が選任され、委員長に浅香氏、副委員長に森川氏が互選されました。

12月22日、第1回役員報酬審議会委員が招集され、令和4年3月に開催予定の通常総会に提案する令和4年度の役員報酬について森川組合長から諮問されました。今

案し承認を受けることになつていい
ます。また、総会に提案する役員
報酬の原案は組合長が役員報酬審
議会に諮問し、役員報酬審議会が
検討を行い組合長に答申し総会に
議案を提出しています。

役員報酬審議会は規程に定めら
れて設置する委員会で5名の委員

J A 役員の報酬額は総会の付議事項で毎年開催する通常総会に提

尚、今回の講習会資料が必要な方は営農販売課までお申し付けください。

についてなど、多くの質問があり活発な意見交換が行われ閉会となりました。

背景に新型コロナウイルスの影響などに伴う米の消費低迷に加え、道内は本年豊作だったこともあり在庫が増えたことがあります。加工用など主食用以外を加えた水稻全体の「生産の目安」は57万204㌧、10万3476俵（前年実績比0・2%・240俵増）と設定しました。

今後はJAや集荷団体、各地域協議会へ提示し、関係機関・団体と一緒にで目安に即した米生産を進めていく方針としています。

前年産の「生産の目安」目標に比べ12・2%減となり、削減の割合は、生産の目安を示すようになつた2018年以来、最も大きくなりました。

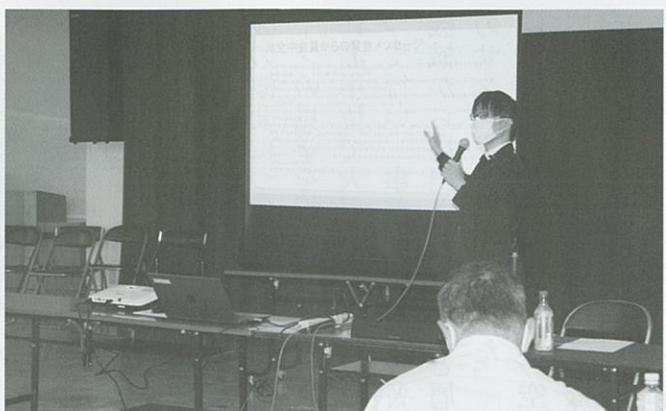
2022年道産米「生産の目安」
目標は前年比12%減

後は、役員報酬審議会で検討を重ね、通常総会に提案する原案を答申することになります。

不祥事撲滅に向けコンプライアンスの意識向上図る

役員向け研修会開催

12月1日、当JA会議室でJA役員を対象にコンプライアンス研修会を開催しました。講師はJA北海道中央会岩見沢支所の林主幹で、研修プログラムは内部統制確立強化と個人情報保護法についてです。



役員コンプライアンス研修会
講師のJA北海道中央会岩見沢支所林主幹



職員コンプライアンス研修会の様子

互率制体制・ガバナンスの確立、役員のコンプライアンス意識向上

に向けた取り組みを進めるよう、役員のメッセージ発信で働き掛けることが重要な効果が働く等の研修を受けました。

役員の皆さんは熱心に研修を受けていました。

職員向け研修会開催

12月14日、当JA会議室で正職員を対象にコンプライアンス研修会を開催しました。講師はJA北

海道中央会岩見沢支所の大場職員で、人事考課制度の理解がコンプライアンスにも繋がるとして、人事考課の役割と個人情報保護の基などについて説明がありました。人事考課の役割の1つとして、人事考課表に基づいて設定した目標の結果について評価・分析し、部下にフィードバックすることで、上司と部下のコミュニケーションの道具になり、何が期待されているのかを共通認識することで、職員が不満を抱えずに風通しの良い職場をつくることができると説明していました。

第11回（12月定例）理事会開催

12月17日開催の第11回（12月定例）理事会において次の事項が決定されました。

◇付議事項◇

1. 決算実地棚卸の実施について
2. 年末手当の支給について
3. 処分未済持分の消去処理について

子供のいる風景 フォトコンテスト表彰式

12月4日、美唄市子育て支援センターはみんなで「2021子供のいる風景フォトコンテスト」の



J Aみねのぶ賞を受賞した方へ
新米を贈呈する森川組合長

表彰式が行われました。「子供のいる風景フォトコンテスト」は美唄市広報誌の昨年7月号に掲載しを開始、9月30日まで応募の受付をしていたもので、50作品の応募が集まり、その中から優秀作品賞として「大賞」（美唄市）「JAみねのぶ賞」（JA峰延）「JAみねのぶ賞」（岸本組）等の各賞に1作品を選んだものです。「JAみねのぶ賞」のプレゼンターに森川組合長が参加し賞状と新米5kg・3kgをセットで贈呈しました。

青年部が青年大会開催する

峰延農協青年部は、11月24日に当JA会議室で、毎年恒例の青年大会を開催しました。

佐藤勝彦青年部長の挨拶に続いて、優良生産者表彰を行いました。稻作（ななつぼし）の部、稻作（ゆめぴりか）の部、麦作（きたほなほなみ）の部で各3名の候補者を選出し、候補者の生産結果となる稻作では反収と加重平均蛋白、麦作では製品反収と製品率を生産履歴内容と合わせて公表し、審査しました。審査員は農業改良普及セ



開会の挨拶をする佐藤勝彦青年部長

農業経営者税務研修会開催

当JA農業振興課は12月2日、JA会議室で若手農業者を対象に税務研修会を開催し、12名の組合員の皆さんが出ました。



税務研修会の様子

交通事故発生時の連絡先のお知らせ

冬は交通事故が増加する傾向にあります。

JA共済ご契約車の事故時の連絡先をお知らせいたします。

曜日・時間帯	連絡先
月曜～金曜のJA営業時間内	JAみねのぶ金融課 0126-67-2113
上記以外及び土曜・日曜・祝日 (24時間365日受付)	JA共済事故受付センター フリーダイヤル 0120-258-931 【連絡事項】 ・加入JA名 ・契約者氏名 ・運転者名 ・契約番号 ・事故車のナンバー ・事故の日時と場所 ・事故発生状況 ・相手方の住所氏名 ・損害の程度など

*JA共済事故受付センターは携帯電話からもご利用いただけます。

*救急119、警察110のご連絡もお忘れなく。(JAみねのぶ 金融課)

ンターの職員2名、森川組合長、青年部長、青年部営農専門委員長の皆さんで、審査の結果、稻作（ななつぼし）の部では鈴木達也さん、稻作（ゆめぴりか）の部では岡部卓磨さん、麦作（きたほなほなみ）の部では内田貴大さんが優良生産者として表彰されました。

JA農試験研究発表は、青年部営農専門委員の皆さんのが1年掛りで「稻わら堆肥を用いた化学肥料と有機質肥料の大豆栽培の生育と収量の比較」について研究を行い、発表資料を作成しました。研究に係る動画は、動画サイトYouTubeで12月1日～6日の期間、当JA正組合員にURLを周知し限定公開しました。

続いて、空知農業改良普及センターの高橋専門普及指導員による「初冬播き小麦の基本知識」について講演があり、参加した青年部員の皆さんには真剣に聞き入っていました。

スパートナーズ（札幌）の職員で、同法人は農業を専門とした各種税務相談・申告・税務コンサルティングを事業内容とし、農業専門誌「ニューカントリー」「教えて税理士さん！」に連載中ということです。

研修内容は、経営継承に係る税務で、経営に係わる税金の種類、決算・申告の注意点、設備投資の考え方と経理処理、節税効果の高い税制の解説が行われ、インボイス制度（適格請求書等保存方式）についても詳しく解説が行われました。参加の組合員の皆さんには真剣に聞き入っていました。

JA一部業務の臨時休業のお知らせ

日頃から当JAをご利用いただき誠にありがとうございます。

年度末決算棚卸のため下記の通り一部の業務を終日臨時休業いたします。ご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解頂きますようお願いいたします。

なお、下記以外の業務は通常通り営業いたしますのでご利用をお待ちしています。

記

臨時休業する日 令和4年1月31日(月)
臨時休業の業務 営農資材店舗
・利用精米所

(JAみねのぶ 総務課)

生活店舗の還元セール大盛況

生活店舗の還元セールは、年に4回行われていて、12月の還元セールの商品引き渡し日は15日、16日に行われました。

商品引き渡しはJA裏にある商品庫にて行われ終日、引取車の車列ができていました。



商品の引き渡しに並ぶ車列

農協職員資格認定試験
(中級・上級) に合格

J A 北海道中央会が令和3年度の基本資格（中級・上級・特級）の合格者を発表しました。当JAの合格者は中級3名、上級1名で

次の通りです。合格おめでとうございます。中級の合格率は61.2%、上級の合格率は54.5%でした。

◇中級（3人）

- ・菊地和矢（内部監査室）
- ・上田駿樹（販売企画課）
- ・中澤幸枝（金融課）

◇上級（1人）

- ・新田真代（総務課）

おくやみ申し上げます

阿蘇 功雄さん
(90歳) 12月20日

下島 新一さん
(94歳) 12月23日
美唄市豊葦町3区

ある時、翁は、湯船のふちに腰かけて、こう諭された。

お前達のような裕福な者は、十分ということを知らないことが多い。まだ十分ではないと言い、あくまでも利得の追求に進む。その

ありようは、この湯船の中に立ち上がり、身を屈ませないでお湯を肩に掛けながら、湯船が浅く、膝にも満たないと、文句を言うのと同じである。もしそんな深い湯船をつくれば、子供たちは湯船の中で溺れてしまう。

それは、湯船が浅いのではない。自分が身を屈めないだけなのである。この過ちに気づいて、ちよつと身を屈めれば、この湯船でも十分に肩まで湯が届く。十分である。他人の責任にすることではない。

世間の富裕者が不足だと言うときは、これに似たことが多い。このことは、総ての事に通する。少し屈めば、何もかもがうまくいく。それが中庸である。

例え、分度もそうである。もし分度を守らなければ、千万石あつても不足と言うだろう。一度でも大きな誤りであることを悟つて、分度を守るならば、余裕はおのず

から出て、人を救つても余りが出る。

湯船は、大人は身を屈めて肩に湯が届くのがちょうど良いとする。これを、中庸という。百石の者は、五十石に身を屈めて、五十石の余剰を作つて譲り、千石の収入のある者はその半分を分度として身を屈め、残り半分を将来と社会に譲る。まさに中庸を生きることになる。しかも仁に近づく。

もし村の若者の一人でもこのことを率先して実行すれば、それを見て、他の人々も皆、自分が分を超えた生活をしていることを悟るに違いない。人々が皆、この誤りを悟り、分度を守つて余剰を作り、それを推讓すれば、その地区は豊かに繁栄し、穏やかな和やかな地区になることは間違いない。そうなれば、その辺りの村々は繁栄し平和を得るだろう。

まさに、昔の大学という書物にある「一家仁なれば、一国に仁興る」ということが実現するわけだ。
（夜三八）

報徳

湯船の教訓



（中級・上級）に合格

J A 北海道中央会が令和3年度の基本資格（中級・上級・特級）の合格者を発表しました。当JAの合格者は中級3名、上級1名で

ある「一家仁なれば、一国に仁興る」ということが実現するわけだ。
（夜三八）

JAグループ通信 60

// JA北海道中央会



JAグループ北海道では、令和3年11月16日に、第30回JA北海道大会を開催いたしました。本大会は、グループの基本方針を確認し関係者の意識を統一することを目的に、3カ年に1度、全道から組合員の皆さんの代表者が札幌に集まり開催しているものです。

今回の大会では、グループの将来ビジョン“北海道550万人※と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」”を実現すべく、令和4～6年度におけるグループの基本目標として、「JA運営の好循環に向けて対話の成果を実践」「JA運営の好循環を支える人づくり・JA経営の強化」が定められました。

本決議をもとに、組合員・JA・連合会一丸となって、JA運営のスパイラルアップに繋がるよう取り組みましょう。

※550万人とは、「道民」と「北海道にゆかりのある道外の方々」のこと

を指します。



↑大会実行委員長挨拶を述べる
中央会小野寺会長

JA北海道信連



特殊詐欺被害については、新聞・テレビなどで連日報道されている通り、新たな手口が拡がるなど大きな社会問題となっています。JAバンク北海道では、11月～1月にかけ、道内のJAバンク店舗でご来店者に対する声かけ運動を行うとともに、STVラジオでオリジナルコーナーを設け、北海道警察の専門家から、詐欺の手口や気を付けるポイントを説明いただきなど、啓発活動に取組んでいます。JAバンクでは、引き続き北海道警察と連携し、特殊詐欺被害の撲滅に向け取組んで参ります。



ホクレン



ホクレンは、北海道日本ハムファイターズと共に取り組んでいる「北海道農業応援プロジェクト」の一環として、10月1日に札幌ドームで開催された北海道日本ハムファイターズ vs 埼玉西武ライオンズ戦に協賛し、「ホクレン北海道農業応援ナイター」として試合が行われました。試合観戦に訪れた来場者に向けて北海道農畜産物のPRや農業への理解を深めてもらおうと特設ブースを設置。ホクレン大収穫祭などのチラシを配布するほか、大型ビジョンでCM放映を行うなどPR活動を行いました。



JAグループ北海道の連合会・中央会の
活動内容を紹介します。
各団体の詳しい取り組み内容は
WEBサイトをご覧ください。

JA共済連北海道



JA共済連では、地域社会貢献活動の一環として、昭和50年から毎年道内各市町村の消防本部に救急車を寄贈しております。今年度の寄贈台数は3台であり、十勝地区の中札内消防署、留萌地区の羽幌消防署、上川地区の上富良野消防署に寄贈いたします。

当年度の救急車の寄贈が完了しましたと、寄贈させていただきました台数は累計で212台となります。



今後も行政とJAとの連携を図りながら、組合員ならびに地域住民に安心と安全の提供を続けるように努力してまいります。

JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るために、本会事業の積極的な啓発推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。本号ではプレゼント企画も行っております。QRコードからWeb上で閲覧・応募が可能となっておりますので、ぜひご応募ください。



←Web上の
閲覧・応募は
こちらから



大地がひとを強くする。

AGRIACTION!
HOKKAIDO



峰延の女性農業者が 考えたレシピ紹介

3回目

今回は、JAみねのぶ女性部の部員が考えたレシピを紹介します。

お正月にあまたのお餅で作れる!とっても手軽で簡単レシピ

周りはカリッと、中はもちっとした食感がたまらない一品

あったか揚げ出し餅



point

餅はカリッとキツネ色に焼くのがポイントです。揚げたてが一番美味しいので温かいうちに召し上がりください!

材料(4人分)

- ・切り餅4つ(1つを4等分する)
- ・めんつゆ 50cc
- ・天かす、ねぎ、かつおぶし、とろろ昆布、サラダ油 適量

作り方

- ①餅を4等分に切り、フライパンに多めの油を入れ、餅が軟らかくなるまで揚げ焼きにする。
- ②鍋にめんつゆと水300ccを入れて煮立てる。
- ③餅を器に盛り、つゆをかけて上に天かす、ねぎ、かつおぶし、とろろを乗せて出来上がり。

JAみねのぶ女性部の活動紹介

JAみねのぶ女性部は、昭和26年に峰延農業協同組合の農協婦人部として設立され、平成8年にJAみねのぶ女性部と名称が変わり、現在18名で活動しています。

夏は峰延地域の景観を美化することを目的に、プランターに色とりどりの花を植える花いっぱい運動、冬は地域へのボランティア活動の一環として、手作りのマスクケースを製作し福祉施設へ寄贈する取り組みなどを行っています。

JAみねのぶ女性部は、女性部員同士の交流や親睦を深める様々な活動を通して、女性たちがいきいきと暮らせることを目指しています。ただいま、JAみねのぶ管内に住む女性部員を募集しています。私たちと一緒に楽しく女性部活動しませんか?



花いっぱい運動でJAに花プランター設置



令和元年 北海道大学植物園で夏期研修実施